

2024 年（令和 6 年）3 月 5 日

第 4 回「将来の電力需給シナリオに関する検討会」
事務局資料への意見（書面提出）

エナジープールジャパン(株)
代表取締役社長兼 CEO
市村 健

議題（1）「需要想定の見直しについて」

今回の検討会の目的は、『当てる』ことが目的ではなく、多様な選択肢があり得ることを示すこと、と認識している。その前提で次の二点を申し述べたい。

第一が、事務局資料 1 の 27 頁以降に電気自動車の記述があるが、それに関連して、「EV ワイヤレス給電」の潜在性についてである。地面に敷設した送電コイルから電動車側の受電コイルに電力を供給するこのシステムは、自動運転との相性も良く、ダックカーブ問題・系統混雑の解決策の一つとしても期待される。イスラエルやアメリカでは本格的な実証事業もスタートしており、欧州でもスペインでは実証後のフィードバックとして、ドライバーの高評価が続出したことで話題になった経緯もある。国際的なこうした動きにも留意すべきと考える。

第二が、熱需要の電化である。事務局資料 1 の 52 頁以降に記述があるが、化石燃料の直接燃焼を電気加熱で代替する場合、その手法は①電気ボイラー、②電磁誘導加熱（Induction Heating、IH）に大別できる。その普及拡大には、需要側の特高供給受電設備の構築が必須ではあるが、カーボンニュートラルの流れでは、その潜在性は無視できない。特に産業 IH の場合、その用途は「溶解」「焼鈍」「焼嵌」「焼入」「乾燥」「鍛造」「溶着」等、多岐にわたる。換言すれば、自動車・機械・電機・半導体から食品産業に至るまで、幅広く活用可能だ。改めて、その潜在性の検討を期待したい。

尚、電気ボイラーに関しては、当社では、e-ボイラーを活用した DR を欧州の複数国で実施しており、VPP 構築の上で欠かせないリソースとなっている。国外の斯様な取組も注視しつつ、その需要の潜在性を検討頂きたい。